

# 宮城県駅伝競走大会

## 新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル

### ◇宮城県駅伝競走大会開催の前提条件

#### 1. 緊急事態宣言が解除されている。

- ①政府、宮城県の移動制限の解除
- ②政府、宮城県の外出自粛の解除
- ③宮城県、石巻市の店舗営業自粛の解除

#### 2. 宮城県、石巻市から大会開催が認められ、コースを通過する地区の住民に対して開催が周知されている。

#### 3. 宮城県、石巻市で新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っている。感染者および感染疑い者が発生した場合に対応可能な医療機関が事前に定められている（バックアップできる医療機関）

### ◇医療体制におけるガイドライン（宮城県のリバウンド防止に向けた指標を参照）

#### ステージ1：医療提供体制に特段の支障がない段階

- 医療提供体制に特段の支障を及ぼさない感染の水準にある状況であり、特に地方部では感染者が散発的にしか発生しない状況である。

#### ステージ2：感染者の漸増及び医療提供体制への負荷が蓄積する段階

- 三密環境などリスクの高い場所でクラスターが度々発生することで、感染者が漸増し、重症者が徐々に増加してくる。このため、保健所などの公衆衛生体制の負荷も増大するとともに、新型コロナウイルス感染症に対する医療以外の一般医療も並行して実施する中で、医療提供体制への負荷が蓄積しつつある。

#### ステージ3：感染者の急増及び医療提供体制における大きな支障の発生を避ける為の対応が必要な段階

- ステージ2と比べてクラスターが広範に多発するなど、感染者が急増し、新型コロナウイルス感染症に対する医療提供体制への負荷がさらに高まり、一般医療にも大きな支障が発生することを避ける為の対応が必要な状況。

#### ステージ4：爆発的な感染拡大及び深刻な医療提供体制の機能不全を避ける為の対応が必要な段階

- 病院間クラスター連鎖などの大規模かつ深刻なクラスター連鎖が発生し、爆発的な感染拡大により、高齢者や高リスク者が大量に感染し、多くの重症者及び死亡者が発生し始め、公衆衛生体制及び医療提供体制が機能不全に陥ることを避ける為の対応が必要な状況。

### ◇新型コロナウイルス感染症予防の基本方針

1. 体調管理チェックシートの事前提出、事後記録
2. マスクの持参、着用
3. 検温の実施
4. 手指の消毒
5. 3密（密閉、密集、密接）の回避

### ◇新型コロナウイルス感染症対策室の設置

1. 本大会における新型コロナウイルス感染症対策室を設置する。
2. 同じく新型コロナウイルス感染症対策責任者を置く。

大会本部 セイホクパーク石巻（石巻市総合運動公園内）

宮城県駅伝競走大会実行委員会事務局 0225-22-9111

感染症対策責任者 宮城県駅伝競走大会実行委員会 実行委員長

#### ◇感染症発生時の対応

1. 大会本部は、参加者から発症の報告を受けた場合の対応方針を開催自治体の保健衛生部局と事前に検討する。
2. 大会終了後、2週間の健康観察期間に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、競技者本人が、大会本部に対して速やかに連絡する。
3. 感染者が出た場合、開催自治体の保健衛生部局に連絡し、指示に従って協力する。
4. 大会本部は、自治体や保健所等と連携しながら、感染者の公表、その内容を決定する。  
情報の公表にあたっては、感染者に対して不当な差別及び偏見が生じないように個人情報保護に留意する。

#### ◇会場における感染予防策

##### 1. マスクの着用の徹底

- ①大会役員、補助員、警備員などすべてのスタッフに常時マスク着用を義務付ける。
- ②選手には、競技中（ウォーミングアップ、クールダウンを含む）以外のマスク着用を義務付ける。
- ③報道関係者等の来場者全ての人にも会場および周辺でのマスク着用を義務付ける。
- ④選手と接触する可能性があるスタッフはマウスガード、手袋などを着用する。

##### 2. ソーシャルディスタンスの確保

- ①会場では可能な限り他人との距離を確保し、必要以上の会話を避ける。
- ②健康に関する誓約書の受け渡しなど、対面での対応が必要な場所にはパーテーション等を設置する。

##### 3. 手指の消毒場所の確保

- ①選手の待機場所、大会役員や運営スタッフ等が滞留する場所にはアルコール等の手指消毒剤を用意する。
- ②布タオルは使用せず、使い捨てペーパータオルを用意する。

（※アルコール消毒液、ペーパータオル等の消耗品はスタート、ゴールなどに主催者が準備。マスクは参加者各自が用意する。ただし、主催者は緊急時に備えて予備のマスクを準備する）

##### 4. スタート、会場の仮設テント

- ①競技者や付き添い家族の距離が近くなりすぎないように呼びかける。使用した競技者が長く滞留しないよう促す。
- ②使用者が触れる場所については、こまめに消毒する。

##### 5. 仮設トイレ

ドアノブ、レバーなどは、こまめに消毒する。

##### 6. ごみの処理

ごみは自己責任で処理する。（原則として持ち帰り）

##### 7. その他

- ①受付や会議等で使用する物品（テーブル、イスなど）、運行車両の室内はこまめに消毒する。

#### ◇競技者およびチーム関係者の対応事項

1. 競技者は大会 2 週間前からの体調管理および検温を実施し、所定の体調管理チェックシートに記入して個人が管理する。

2. 競技者健康状態を確認し、提出用の体調管理チェックシート1枚を主催者に提出する。
3. 体調管理チェックシートを提出しない人の出場を認めない。
4. 競技者は、会場到着時に検温を実施する。異常があった場合には大会本部の医師の指示に従う。
5. 体調が不確かな競技者がいたときは、その場で検温を実施し、大会本部の医師の指示に従う。
6. 大会終了後2週間の体調管理・検温を実施する。
7. 競技中を除きマスクの着用を義務とし、マスクをしていない人に対し注意を促す。手指の消毒の徹底を呼び掛ける。
8. 会場では、唾（つば）や痰（たん）を吐くことは慎む。
9. 接触確認アプリの導入が望ましい。

#### ◇大会関係者の対応事項

1. 感染予防対策を目的に個人情報取得の必要があり、健康に関する情報は要配慮個人情報にあたるため、選手、チーム関係者、参加者から必ず同意を取る。
2. 大会会場への移動の際は公共交通手段の使用はなるべく避ける。自家用車で移動する大会要員は道路事情を踏まえ、交通事故の防止に留意する。
3. 大会前2週間の体調管理チェックシートを記入し、所属団体の責任者が管理する。責任者は提出用の体調管理チェックシート1枚を主催者に提出する。異常があった場合は、感染症拡大防止のために業務従事の辞退を求める。
4. 大会終了後2週間の体調管理・検温を実施する。
5. 接触確認アプリの導入が望ましい。

#### ◇運行車両の対応

1. 車内の消毒  
運行前に車内の除菌、並びに除菌シートまたは消毒液等の準備をする。
2. 運転手の健康管理  
運転手には手洗い・うがいの励行と体調管理の徹底、マスクの着用を促す。
3. 車内換気  
運行中は外気導入運行を実施し、常に車内の空気を入れ替え行い運行する。
4. 乗降時の手指の消毒とマスク着用  
車両乗降時の手指の消毒と乗車中はマスクの着用する。
5. 車中での食事の禁止  
車中での飲食は禁止し、大声での会話は控える。
6. 座席について  
座席の移動は控え、最低1m以上座席の距離をとる。
7. ゴミの回収  
車内で発生したゴミは持ち帰り。

#### ◇観戦者への対応

1. 応援団、父母会、OB会等による応援は自粛を要請する。
2. スタートや沿道、ゴールでの観戦、応援は自治体広報などで自粛を要請する。
3. スタート、ゴールの付近では、コーンやバーで立ち入り禁止区域を設け、3密状態の発生を防ぐ。
4. 観戦や応援の人たちによる3密状態が発生したり、発生しそうになったりした場合は、スタッフが解消を促す。

## ◇レースの管理

### 1. スタート前

①他の選手、スタッフと密になることを避けるように呼びかける。

### 2. フィニッシュ後

①フィニッシュ後は速やかに選手を指定区域へ移動するよう誘導する。

②競技中、フィニッシュ後に倒れ込んだ競技者の対応は、防護体制を整えたスタッフで対応する。

③レース終了後は、手指のアルコール消毒、手洗いを促す。

### 3. メンバー、記録の確認

①メンバー、記録を掲示することによる密集を避けるため、ウェブでの確認を促す。

## ◇当日の医療体制

1. 医師らが医療班用車両で随行する。異変があった場合には医師の指示に従う。

2. 当日の感染者発生に備え、医療用个人防护具（マウスシールド、手袋、マスクなど）を準備する。

## ◇メディア・取材への対応

### 1. 主催者の対応事項

①主催者は報道各社向けの大会取材要項を作成し、メディアの履行義務事項（開催2週間前の体調管理・検温の義務と体調管理チェック表の提出、および終了後2週間の体調管理・検温を行う旨を必ず記載）などを記載し、取材の事前申請を受け付ける。

### 2. 取材方法、人数について

①人数を設定し、事前に報道関係各社と取り決めをする。

②報道受付では、事前に記載してきた取材申請者から個人別の体調管理チェックシートを受け取る。

③インタビューはオンラインまたはパーティション越しとし、選手との接触を防ぐ。

### 3. 取材・撮影エリア

①設定した撮影エリア内でのソーシャルディスタンスは、カメラマン同士で調整するよう促す。

### 4. 報道取材者への依頼

①取材時はマスクを着用する。

②大会開催2週間前の体調管理・検温と体調管理チェックシートの提出、大会終了後2週間の体調管理・検温を実施する。

③会場内では手指の消毒やせきエチケットなどを心がける。

④取材人数・取材方法・取材エリアを遵守する。